2班　岩上（ＳＬ・気象・会計）　久保田（写真）　大沼　菅野　宮川　赤川
3班　吉沢（ＳＬ）　滝野　荻野　桜井　小田（医療）
定着隊
鳥山

丹　後　隊　　8月4～10日

8月4日①

新前橋（6：36）　六日町（10：35）═══ 十字峡（12：50）── 栃木沢出合（13：55）⛢

野中より15分程度歩き、その後荷物のみ小型トラックにのせて、我々は歩く。十字狭よりザックをかつぎ栃木沢出合まで歩く。先ず初日として順調である。

8月5日●

⛢（6：20）── 丹後山頂（13：15）◇(14：00）

時計がなく起きたのが4時40分。すぐ出発する。最初から急な登りがはじまる。2人まいる。先頭につけて歩いたが仲々距離がかせげず。雲の切れ間より兎岳方面に雪渓がみえる。丹後山頂はガスっており何も見えず。だが広くて池糖も2、3ケ所有り幕営地としては良いだろう。コバイケイ　ウがさいていた。幕営地は地糖の水の澄んでいる所にする。三角点から北へ500m程行った所である。雪渓から水を得ることは出来なかった。

8月6日　●→①

⛢（6：15）── 大水上山（6：30）── 1700MP（11：55）── （16：15）藤原山⛢

3：10に起床。大水上をなんなく通りすぎる。大水上からの下りは急で足場が安定していない。藤原山まで午前中に着けるように思える。あざやかな稜線だ。1700MPより3つ程Pが続くがここがすごいヤブで時々道をまちがう。藤原山の頂上はせまく、テント3張やっと張る。水は3人が下の沢までとりに行く。平ケ岳と丹後山が目の前に見える。

8月7日①

⛢（6：05）── 剣ケ倉（10：05）── 鷹ノ巣手前P（12：20）── 平ケ岳（14：00）

6：25頃から1時間程急登のヤブがありコタエル。この日は利根川をはさんで越後沢、丹後山などがよく見えた。この日はどうしても平ケ岳に早く着きたかったので、どうしても12時前に剣ケ倉に着こうとしてペースが早くなったかもしれぬ。剣ケ倉より平ケ岳は予想外に時間をくい失敗した。平ケ岳にて思いがけず工学部ＷＶに会いうれしかった。水は全て雪渓を利用した。

8月8日①

⛢（12：15）── 白沢山（14：15）── 1918MP（15：40）── （17：45）大白沢⛢

午前中平ケ岳にて遊ぶ。平からは越後三山、荒沢、武尊岳、至仏山、燧岳、会津駒、富士、北アルプス、磐梯方面の山が見えた。余り平ケ岳がよかったので1日この平ケ岳に沈殿したかった。
工学部ＷＶは、6：40頃出発したが、我々は時間を甘くみすぎて、12時過ぎに平ケ岳を出発する。白沢山までは道もはっきりしていて、時々地糖があり快適。白沢山から大白沢まで苦労する。それまで

になかったようなきびしさだった。大白沢山頂上は草原が続いており、目の前にぼんやりと大きく至仏仏山が見える。水は3人、猫又川方面へ下って取ってきた。虫がものすごくいてそこらじゅうくわれる。大白沢の池は、北側下方にみえる。

8月9日 ①

◇（7：10）―― 東白沢（8：25）―― 景鶴山（13：55）―― 見晴（16：05）⛢

7：10に出て景鶴に向う。朝露のため、下半身ビッショリ。東白沢まですごいヤブ。東白沢頂上は全体がヤブにおおわれていて、展望きかず。少し高い木に登ると下方に池が見えた。ここに工WVが泊まる。景鶴が目の前に見えるが、まだ相当かかりそうだ。景鶴に近ずくにつれて、今までになかった岩肌が見える。景鶴についた時はうれしかった。尾瀬ケ原が眼下に広がる。ここで合宿のほとんどを踏破したという満足感にひたる。ここで残念なのは、ヨサク岳を断念したことだ。ここで県境縦歩が不完全になることを思うと誠に残念だった。尾瀬ケ原に出るのは、道がついていたのと、下界へ下りるうれしさとペースが早くなる。尾瀬ケ原へ出た時は本当にうれしかった。

8月10日 ①

A ⛢（6：30）―― 温泉小屋分岐（9：00）―― 熊沢田代（11：30）―― 御池（13：05）――（14：25）七入◇

B ⛢（6：35）―― 温泉小屋（7：00）―― 三条の滝（7：40）―― 西田代（11：00）―― 御池（11：35）――（13：15）七入◇

鬼怒沼隊　　8月8日～12日

8月8日 ①

前橋（6：07）―― 沼田（7：40）――（10：35）金精峠口（11：20）――（11：47）金精峠（11：57）――（13：40）念仏小屋（13：55）――（14：35）キャンプ地⛢

新前橋にて全員揃う。真赤なユニフォームを着て各座席に座っている部員達を見て、与えられた義務と責任を踏破する事に対するファイトが湧くと同時に、定着地に着くまでの4日間を無事に過せるかどうかという不安がないわけではなかった。しかし田畑の中を走るバスから山を見上げ、そして各部員達の楽しい会話を耳にして緊張感が解けた。懸念を捨て、金精峠登り口より足を大地に踏みつけ出発とする。急な登りに丸太が横に置いてある道であったが、暑い日射しと、流れる汗に歯をくいしばって登った。最後部に居る久保田、清水両君に部員の状況を聞く。両人は、ユーモアも有り、非常に頼りになった。峠よりの道は眺望もよく、木々が暑い日射しをさえぎるので、絶好な状態であった。倒木は、それ程気にならなかった。念仏平から根名草山の鞍部にテントを張り野営地とする。

8月9日 ①

⛢（5：25）――（5：47）根名草山頂（5：55）――（8：23）日光沢温泉（9：40）――沢分岐通過（9：57）――（12：23）鬼怒沼――キャンプ場へ（13：30）⛢

根名草山の山頂は誤り易い。木がなく開けた地点が有るが、そこではなく、もう少し北の地点であ